

今後の計画（3年間）	30年度の具体的な取り組み・タイムスケジュール	ヒアリング時の特記																																						
<p><教務専門委員会・教務> GPA制度の今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆試行導入を経て平成31年度学事システムのリプレイスに併せて本格導入する。 ○評価とグレード・ポイント（31年度入学生から適用） <table border="1" data-bbox="219 380 819 638"> <thead> <tr> <th>可否区分</th> <th>評価</th> <th>グレード・ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">合格</td> <td>S</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>N</td> <td>GPA 計算対象外</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>D</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>受講取り下げ</td> <td>F</td> <td>GPA 計算対象外</td> </tr> </tbody> </table> <p>○計算式</p> $GPA = \frac{(S \text{ の単位数} \times 4.0) + (A \text{ の単位数} \times 3.0) + (B \text{ の単位数} \times 2.0) + (C \text{ の単位数} \times 1.0) + (D \text{ の単位数} \times 0.0)}{\text{履修科目総単位数 (不可の単位数を含む)}}$ <ul style="list-style-type: none"> ◆導入することにより以下の項目について活用が考えられる。（各部門にて検討が必要） 教務関係 <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況把握と履修指導（成績不振者の抽出） ・転学科・転コース基準 学生関係 <ul style="list-style-type: none"> ・授業料減免基準、勉学奨励基金給付基準、海外留学の選抜基準 大学院 <ul style="list-style-type: none"> ・入学推薦入試選考基準 	可否区分	評価	グレード・ポイント	合格	S	4.0	A	3.0	B	2.0	C	1.0	N	GPA 計算対象外	不合格	D	0.0	受講取り下げ	F	GPA 計算対象外	<p><教務専門委員会・教務></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆GPAについては平成29年度から試行導入している。 ○評価とグレード・ポイント（現在試行中） <table border="1" data-bbox="1172 348 1771 575"> <thead> <tr> <th>可否区分</th> <th>評価</th> <th>グレード・ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">合格</td> <td>優 (A)</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>良 (B)</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>可 (C)</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>修 (N)</td> <td>GPA 計算対象外</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>不可 (D)</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>受講取り下げ</td> <td>放棄 (F)</td> <td>GPA 計算対象外</td> </tr> </tbody> </table> <p>○計算式</p> $GPA = \frac{(\text{優の単位数} \times 3.0) + (\text{良の単位数} \times 2.0) + (\text{可の単位数} \times 1.0) + (\text{不可の単位数} \times 0.0)}{\text{履修科目総単位数 (不可の単位数を含む)}}$ <ul style="list-style-type: none"> ◆本格導入される平成31年度までに特に変更の必要がなければ現在の制度を継続し、併せて平成31年度入学生から成績評価基準を5段階に変更する。 平成29～試行導入と検証 平成30年 9月 GPA 運用規程案および学則改定案の検討（教務専門委員会） 平成30年11月 修学規程改定案の検討（教務専門委員会） 平成31年 1月 GPA 運用規程案、学則改定案、修学規程改定案の承認（全学教授会） 2019年度版履修ガイドへGPAの説明を追加 平成31年 4月本格導入 	可否区分	評価	グレード・ポイント	合格	優 (A)	3.0	良 (B)	2.0	可 (C)	1.0	修 (N)	GPA 計算対象外	不合格	不可 (D)	0.0	受講取り下げ	放棄 (F)	GPA 計算対象外	<p><教務専門委員会・教務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証評価「教育の質の保証」が求められる。各科目ごとの到達目標。 ・ルービック評価など、他大学を参考に導入 ・GPAで評価する先生方が横並びにしておく必要あり ・S評価は、できの良い学生のモチベーションをあげる ・学生、先生方へ説明 ・編入学生の評価は、Nを除くので分母が低くなる ・他の制度とのリンク（奨学金など） ・学生はGPAをあげる手段をとる。先生方は状況をみて指導する ・他に取得状況（124単位取得者と150単位取得者など）など努力を見る評価も必要か ・クラスで順位を決めるときは加味している ・GPAの公表（高等教育の無償化）や、学生、保護者への周知方法？ ・学生、保護者へ年2回周知（成績通知） ・他大学では、単位、GPAの集計を学科、学年で公表している ・Webで公表する際は、コピーができないなど対策する
可否区分	評価	グレード・ポイント																																						
合格	S	4.0																																						
	A	3.0																																						
	B	2.0																																						
	C	1.0																																						
	N	GPA 計算対象外																																						
不合格	D	0.0																																						
受講取り下げ	F	GPA 計算対象外																																						
可否区分	評価	グレード・ポイント																																						
合格	優 (A)	3.0																																						
	良 (B)	2.0																																						
	可 (C)	1.0																																						
	修 (N)	GPA 計算対象外																																						
不合格	不可 (D)	0.0																																						
受講取り下げ	放棄 (F)	GPA 計算対象外																																						
<p>年間履修登録単位上限（キャップ制）の今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆平成31年度から履修登録単位上限を48単位とする。 ◆GPA値が高い学生については、30年度の検討結果を踏まえ制限を緩和する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆第3回教務専門委員会にて現在の上限値である52単位を、48単位に変更した場合でも、GPAが一定の数値であればプラス4単位（52単位）までは認め、その値についてはGPA2.7をボーダーにする案を提示し各コースへ検討を依頼した。 ◆7月に開催する第4回教務専門委員会で履修単位制限を緩和する際のGPA値が2.7で可能であるか確認する。 <p>緩和する場合の算定履修期間と受講単位数の検討および確認</p> <p>平成30年 9月：緩和する場合の算定基準の確認 平成30年11月：修学規程改定案の検討（教務専門委員会） 平成31年 1月：修学規程改定案承認（全学教授会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多く受講しても単位が取得できていない ・GPA2.7以上はコースで5%いない ・各コースで学年ごとの履修（配分）確認 ・認証評価では、50単位を超えるか、下回るかで違う 																																						
<p>コース等の取組</p>																																								
<p><大学院></p> <p>大きな流れは、前年度作成した資料（別添）に沿ったものとなる。</p> <p>検討項目は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系列のあり方 変更すべきか否か（下記2.参照） ・単位の与え方 東大の一部では、2年間の通年科目で10単位を与えている ・授業の英語化 3年のスパンで考えるなら、留学生の増えた系列と出来るところからやっていく。 	<p><大学院></p> <p>10月くらいまでの間に、大学院教員の合意を取りたいと考えている。</p>	<p><大学院></p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士の科目を減らす。系列にしばらくられない ・授業の英語化で英語圏から受け入れ。できる教員からしていく 																																						
<p><船舶></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆実務に強い技術者を養成する。そのためには、基礎学力と基礎知識、コミュニケーション能力と人間力、技術の進歩に対応する積極性と探求心が重要である。 ① 演習を増やして、基礎学力の充実に努める。 ② 英語の充実により、グローバルなコミュニケーション能力の充実を図る。実際、卒研究生が、英語の論文を読もうとしないので困っている現状もあり、打開策を模索する。 	<p><船舶></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学習および学生支援センターと協力して、基礎学力ならびに生活指導状況の向上を計りたい。 ◆予算が許せば、もっとTAを活用したい。 ◆4人体制でも可能なカリキュラム（スリム化+他コースとの柔軟な連携）を、具体的に検討する。 ◆造船所や進水式の見学会を実施し、実物に触れる感動を与えたい。 	<p><船舶></p>																																						

<p>③ 企業の現状を学ばせるために、工場実習やインターンシップに、積極的に参加させる。</p> <p>④ 市場情報に触れるチャンスを拡大させたい。中長期的に、何が求められているか？、我々は何を目指していくか？などを、考える場をセッティングする。</p> <p>◆昨年度で改組が完成したが、これまでの状況を検討し、カリキュラムの更なるスリム化に取り組む。ただし、浮体静力学、材料力学、造船設計Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳなどの船舶工学の核を成す科目は、堅持する。</p> <p>◆海洋産業技術者の養成に関しては、現在の海洋関係の講義でと船舶の講義で対応可能と思う。</p> <p>◆反転授業や Google Classroom 等、ICT を利用した教育改善を試みる。</p>		
<p><機械> JABEE の状況（履修と審査）</p> <p>◆毎年のように、JABEE 対応科目数を増加させる改善を行い、履修を継続する学生が増えている。</p> <p>◆継続審査が H28 年度に実施された。毎年の対策を行った成果で 6 年間の継続認定を受けた。入り口・出口で認知度をアップさせる必要がある。</p>	<p><機械></p> <p>◆H30 年度履修状況は、1 年、20 名、2 年、20 名、3 年、15 名、4 年、13 名。</p>	<p><機械></p> <ul style="list-style-type: none"> • GPA は試行段階のため、参考にしているレベル。就職時に必要になる • 技術士、大手は多いが、小さい所は知名度が低い • JABEE は経費がかかるので、辞める大学もある
<p><建築> カリキュラムの見直しとそれに応じた建築関係資格の手続き (平成 30 年度)</p> <p>◆新カリキュラムの検証 (平成 31 年度)</p> <p>◆新カリキュラムの検証 (平成 32 年度)</p> <p>◆新カリキュラムの検証 ◆カリキュラム見直しの検討</p> <p>建築専門教育のさらなる充実 (平成 30 年度)</p> <p>◆学生が興味を持って主体的に学べる教育 (平成 31 年度)</p> <p>◆学生が興味を持って主体的に学べる教育 (平成 32 年度)</p> <p>◆学生が興味を持って主体的に学べる教育</p>	<p><建築></p> <p>◆今年度からの新カリキュラムに応じた建築関係資格における受験資格の審査（前期）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新カリキュラムによる建築士受験資格の認可取得 • 同様に、建築施工管理技士受験資格の認可取得 <p>◆新カリキュラムの問題点の検討（後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今年度適用されている 1 年生の新カリキュラムについて効果の検証 • 来年度の新カリキュラムへの移行に伴う複数学年受講時の教室確保などの対応 <p>◆大学全体のカリキュラム見直しとの調整（後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 建築関係資格に必要なカリキュラムを確保しながら、教務委員を中心に教室会議等で検討 <p>◆40 名を越える学年の対応（前・後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> • TA の活用などによる教員負担の軽減 • CAD 授業など 1 つの教室に収まらない場合の対応検討 <p>◆7 号館からの移動に対する検討</p> <ul style="list-style-type: none"> • 移動先建物の耐震性確保および適正な教室面積および室内環境（空調、照度）等の確保 • 移動についての学生および学内外への統一的な説明 <p>◆地域に密着した研究の実施（前・後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 長崎の歴史的建物や地域に関する調査、研究の実施 <p>◆学生が主体的に活動するイベントの支援（適宜）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学生が主体的に設計コンペや木工工房等に挑戦 <p>◆建築実務（建築士等）を意識した教育（前・後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 建築士問題などを利用した授業の実施 • OB・OG の活動紹介、OB・OG による講義・講和 <p>◆海外研修の検討および実施（～9 月）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 安全面と学生の要望などを配慮して検討 	<p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> • 40 名を超えると部屋がいっぱい • 試験あまめ、大学の評価を落とす • 家庭の経済状況もあり、落とすことに勇気がいる • 160 名を 5 名の教員で支えるのに限界。議論の時期か • CAD は情報科学センターの活用を進める • OB 佐々木氏の日本一 • 住宅フェアへの参加

<p><電気></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆全学年共通科目「電気電子工学演習」を新設し、上級生が下級生に教える形で、演習を行う。「人に教えること」が知識・技能の定着に繋がり、学年を越えた人的繋がりを促進する。 ◆卒研発表の「コロキウム」化を行う。年3回、各5分の発表ではなく、じっくりと発表・議論を行う場を設ける。上記「電気電子工学演習」の時間に行くと下級生にも刺激となる。ただし最終発表（公聴会）は維持。 ◆電気電子工学実験の近代化を図る。IoTを踏まえて、教育用小型PCを用いた制御実験等を導入。 ◆より段階的で積み重ねを重視したカリキュラムに改善する。 例：電気電子計測(3年後期)を前倒しし、実験科目(2年後期)の前に修了させるよう改善・電磁気学のクォーターを廃止。 ◆田中・松井前コース長らの頃より、教育の質の確保を最重要課題として掲げている。しかし、入学時学力と相まって、特に「電磁気学」や「電気回路」といった大変難解且つ積み重ねを要する科目において、なかなか単位取得が難しい学生もおり、バランスをとるのが非常に難しい。さらになんらかの心的・身体的問題を抱えた学生もいるため、対応をよく考えていくことが課題である。 ◆理解が遅い・心身的問題等で単位取得が遅い学生の救済が必須である。 	<p><電気></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆1年生から新「電気電子工学演習」をスタートした。来年度以降徐々に対象学年を上げていく。 ◆今年度中間発表で試用する。 ◆一部導入していたものをさらに大々的に導入する。 教育研究設備申請に盛り込み、可能な部分から進めていく（間接経費等を用いて） ◆カリキュラム調整は昨年行ったので、それに従い今年から順次実施する。さらに最適化を模索する。共通の科目とのすり合わせ（電磁気等）を行う。 ◆どこまで質の確保として重要かを見極め、講義内容をできる限り質を確保しつつ見直す。また、単位不足学生については必修講義に限り特別補講(再履修課程)・後期講義の前期への前倒しをするなど、柔軟な対応をとる。さらに、3年生後期の必修科目を廃止するといったカリキュラム構成の見直しを行う。 ◆蒲原前学生委員長が提唱していた「4年での卒業」ができない学生のための措置（学費減額等）の導入を推進する。 	<p><電気></p>
<p><医療></p> <p>国家試験の現状と今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆当コースの新入生は、センター試験で入学する学生が多く、比較的学力が高いことも特徴である。しかしながら、入学者の半分、約20名程度しか、臨床工学技師の国家試験に合格できないことも事実である。これまでの国家試験の結果は、資料2の通りである。この5年間の合格率は、全国平均以上をどうにか保っている。合格率を全国平均より高くすることは、入学者数を確保することにも繋がる。当コースでは、国家試験の合格率を全国平均以上として、一人でも多くの学生が合格できるシステム運用を構築することを目標としてきた。しかしながら、学習能力の不足で国家試験に合格出来ない学生がいることも事実である。当コースでは、3年生から4年生に上がる際に、病院実習履修資格試験を行なっている（資料3）。しかしながら、このシステムに不満を持つ学生や保護者もいるようである。この試験に加えて、3年間の各学生の成績評価係数のμ値も参考にして、最終的には、学生、及び、保護者と面接して、総合的に学生の進路指導を行っている。これからの3年間も、学生・保護者から不満が出ないシステム（国家試験受験までのロードマップ）を構築していきたい。 <p>実習施設のさらなる充実化に伴う教育の質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆H30年度は、新たに4年生の病院実習先として、長崎大学附属病院と長崎みなとメディカルセンターを増やすことで、学生への教育の質向上アップを期待したい。この件は、数年前から準備してきて、本年度から、その契約に至った（資料4）。31年、32年度も、両病院の病院実習のコマ数を増やし、学生の学力向上に繋げて行きたいと考えている。 	<p><医療></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆H30年度は、 1) 3年生に対して、12月から合計3回の模擬試験を行なって、ある一定以上の点数を取った学生を合格とし、4年生で病院実習に行かせる。H30年も、この試験に加えて、3年間の各学生の成績評価係数のμ値も参考にして、最終的には、学生、及び、保護者と3者面談を行い、教官全員で合否判定を行う（資料3）。 2) 4年生に対しては、4月から毎月1回の模擬試験、8-10月の病院実習、及び、11月からは月2回の模擬試験を予定している（資料3）。このシステム（国家試験受験までのロードマップ）の外枠は、ほぼ完成されている。H30年度は、その中身である教育内容自体の充実が必要と思われる。模擬試験問題を自分達で作成したり、3)で述べる実習施設の充実化に伴う教育の質向上を行う。 ◆H30年度は、病院実習終了後、病院実習報告会を企画している。その会には、3年生にも参加に参加して戴き、勉学の意欲を高め、また、病院への志、規律を正す教育も実施したいと考えている。最終的には、2)の国家試験合格率アップに繋がるのではないかと期待している。 	<p><医療></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2週間に1回資格試験。関門をつける ・中身を良くするため、制度をつくった
<p><マネジメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2017年度に改組完成を迎えて、今年度からのカリキュラム改革を検討し実施した。 しかし、一部に検討が不十分な部分も見受けられ、また経営系教員の未補充を受けて、さらなるカリキュラム改革を来年度に実施する。そこでは、科目数では1科目削り、2学年同時開講の隔年開講科目を5組設定し、単年度の授業科目数を削減した。これによって、学生にも教員にも時間割にゆとりができるので、学生指導、資格取得指導や補習等に充当させる予定。 さらなるカリキュラム改革は、コース単独ではなく、学部内または学部改組などの本学の将来計画の策定とともに進める。 	<p><マネジメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2018年度の本コースのカリキュラム改革に向けた検討の状況は以下の通り。 6月中：来年度カリキュラム案提出(教務専門委員会) 	<p><マネジメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミ合宿 波佐見町の九州教具で従業員からの話を聞く。学生の意欲見えた。コース全体でやれることを考えていきたい ・2年次に実習Ⅰ、Ⅱを必修。ビッグデータをExcel使って処理。ゼミにつなげていく。工程管理は来年度必修とし、生産・品質管理の名称を変える。AIは活用事例を紹介し、ゼミや卒研で活用方法を学ぶ（データサイエンス） ・来年度 診療報酬のデータ処理をやってみようと思っている
<p><生命></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大学全体の体制変更に合わせて議論を行う。 ◆主専攻・副専攻に合わせて検討を他コースとも協調して進める。 ◆卒業研究や低学年時のゼミ指導を複数教員による担当制を目指していく。 	<p><生命></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新任教員を含め個々の役割と責任の再確認をする。 ◆カリキュラムの整理に向けた議論を行う。 	<p><生命></p>

<p><共通></p> <p>(1) 初年次導入教育の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> NiAS 初年次導入教育プログラム Ver.1.0 の実施と検証 [平成 30 年度] 同プログラムの改良と実施 (アップデート(Ver.1.1)) [平成 31 年度] NiAS 初年次導入教育プログラム Ver.1.1 の実施と検証、次期プログラムの必要性の検討 [平成 32 年度] <p>(形成科目群の見直し)</p> <ol style="list-style-type: none"> NiAS 形成教育プログラム Ver.1.0 (改組後のカリキュラム変更に伴う変更) の実施 [平成 30 年度] 同プログラムの実施と検証と改良 [平成 31 年度] NiAS 形成教育プログラム Ver.1.1 の実施にむけた検討 [平成 32 年度] <p>(2) 英語教育の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> NiAS 英語教育プログラム Ver.2.0 の実施 [平成 30 年度] 同プログラムの検証と改良 (アップデート(Ver.2.1)) [平成 31 年度] NiAS 英語教育プログラム Ver.2.1 の実施と同プログラムの検証・改良 (アップデート(Ver.2.2)) [平成 32 年度] <p>(2) 理数教育の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> NiAS 理数教育プログラム Ver.2.0 の実施 [平成 30 年度] 同プログラムの検証と改良 (アップデート(Ver.2.1)) [平成 31 年度] NiAS 理数教育プログラム Ver.2.1 の実施 [平成 32 年度] 同プログラムの検証と改良 (アップデート(Ver.2.2)) <p>(情報科目の見直しによる充実)</p> <ol style="list-style-type: none"> 改組後のカリキュラム変更により、NiAS 情報教育プログラム Ver.2.0 を実施 [平成 30 年度] 同プログラムの、とくに基礎教育部分についての検証、問題点の洗い出しと改良方向の検討 [平成 30 年度] NiAS 情報教育プログラム Ver.2.1 の実施 [平成 31 年度] 同プログラムの検証と改良 (アップデート(Ver.2.2)) [平成 32 年度] 	<p><共通></p> <p>◆平成 30 年度に改組完成後のカリキュラム変更に伴い総合情報学部での必修化が行われた大学生入門のプログラムについて、同学部とともに教育的効果を検証し、改良に向けた検討を行う。</p> <p>【タイムスケジュール】</p> <ol style="list-style-type: none"> 問題点の洗い出しと効果の検証 [平成 30 年 12 月まで] NiAS 初年次導入教育プログラム Ver.1.1 の実施に向けた準備 [平成 31 年 3 月まで] <p>◆改組後のカリキュラム変更により科目数の削減などをおこなった形成科目群の問題点の洗い出しなどを行う。NiAS 形成教育プログラム Ver.1.0 の問題の改善、検討を行う。</p> <p>【タイムスケジュール】</p> <ol style="list-style-type: none"> 科目の時間割配置の問題点 (学生の学習の保障など) など、形成科目群の教育上の問題点の洗い出し、調整などを行う [平成 30 年 12 月まで] <p>◆改組後のカリキュラム変更により、平成 30 年度より実施開始した NiAS 英語教育プログラム Ver.2.0 の実施の検証、問題点の洗い出し、可能な修正改善を行う。</p> <p>【タイムスケジュール】</p> <ol style="list-style-type: none"> NiAS 英語教育プログラム Ver.2.0 の実施検証、改善の検討 [平成 30 年 12 月まで] <p>◆改組後のカリキュラム変更により、平成 30 年度より実施開始した NiAS 理数教育プログラム Ver.2.0 の実施の検証、問題点の洗い出し、可能な修正改善を行う。</p> <p>【タイムスケジュール】</p> <ol style="list-style-type: none"> NiAS 理数教育プログラム Ver.2.0 の教育的効果の検証、改善の検討 [平成 30 年 12 月まで] <p>◆改組後のカリキュラム変更により、平成 30 年度より実施開始した NiAS 情報教育プログラム Ver.2.0 の教育効果の検証を行うとともに、実施上の問題点の洗い出し、可能な修正改善を行う。</p> <p>【タイムスケジュール】</p> <ol style="list-style-type: none"> NiAS 情報教育プログラム Ver.2.0 の検証、改善方策の検討、必要な学内調整 [平成 30 年 12 月まで] 	<p><共通></p> <ul style="list-style-type: none"> 情報は全学カリキュラムのため全学的なチェック (検証) が必要 (情報科学センター拡大運営委員会) PC を買わせるか、貸与かで端末室のあり方や教育システムが決まる 学生はスマホを使用し、PC を使わなくなっている リメディアル教育、導入教育は義務化されていない キャリア、アクティブラーニングなどはプラスポイント 「大学生入門」必修のため、落とした時は後期で再履修。上の層は不満があるが下の層の引上げ 時間割の組み方で物理的な問題がある 形成の科目を 7~8 科目減らした。多様な観点から、人文・社会、人間の発達、現代社会など 4~5 の考え方を担保 共通テストを導入し、英語のためだけで卒業ができない学生がなくなった。学生とのコミュニケーションをとっている 学習支援センターの英語は「駆け込み寺」の要素で教員不在を危惧している。いないと学生が頼りにするところがない
<p><教職></p> <ol style="list-style-type: none"> 平成 30 年 4 月に提出した教職課程再課程認定の結果を受け、平成 31 年度からの教職課程カリキュラムが適切に実施できるよう準備する。 教職関係のホームページの内容の更新を図り、履修する学生の学習環境を整備する。 教職課程の目的について、担当教員同士で共通認識を深めるために、協議や FD の機会を設ける。 教職履修カルテ及び教育実習の記録様式の見直しを行う。 	<p><教職></p> <ol style="list-style-type: none"> 教職課程全般に関する担当教員の共通認識を深めるための協議会及び FD を開催する。 教職履修カルテ及び教育実習記録様式の内容の見直しを行う。 教職課程に関するホームページ上の内容の見直しと更新を行う。 教職履修学生が、途中で履修を放棄することの無いよう履修指導を徹底する。 	<p><教職></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の学校との連携。支援やボランティアはゼミ、卒論で時間が難しい 「商業」の場合、長商 (卒業した学校ではない) 3 年生 20 名 (工業 5、情報 4、商業 4、理科 7 名) 企業の求人が多い時は、企業へ。ない時は教員 3 年の段階で止める学生が多い 教職センター等を設置し、質の向上を図る。活水には設置 各大学と県教育委員会で協議会があるが機能していない
<p><別科></p> <ol style="list-style-type: none"> 別科の現状に合わせたカリキュラムの改定 学習環境の整備 別科からの学部・大学院への入学者増を図る。 戦略的予算を確保し留学生の学習支援の継続を図る。 協定校拡大に伴う別科の受け入れ体制を整備する (聴講生・交換留学生の受け入れなど)。 	<p><別科></p> <ol style="list-style-type: none"> H31 年度カリキュラム改定に向けた諸作業 (8-9 月) <ul style="list-style-type: none"> 本学学部進学者を対象にしたカリキュラムに改定する。 教室の整備 (老朽化の解消と言語学習に適した学習環境) <ul style="list-style-type: none"> 来年度も別科教室 3 を使用するのであれば整備が必要である。 オープンキャンパスへの参加 (9 月を中心に) 先輩学生による本学 PR (9 月実施予定) 戦略的予算による別科生の学習支援 (通年) 	<p><別科></p> <ul style="list-style-type: none"> レベルでクラス分けしているが 1 クラス 22 名は多い。他大学 15 名 現状のカリキュラムが実態とあっていない 先駆的テキスト、今の学生に使えない 教室内外でインフォメーションギャップ。多様であれば吸収できる
<p><知能></p>	<p><知能></p>	<p><知能></p> <ul style="list-style-type: none"> ET ロボコンの活動は就職への効果があがっている。下の学年が難しい。あまり言うと逃げる。先生が集めている 学生の興味があることをコースをまたぐやり方はある 工学部に入ってくる学生と総合情報と違う 卒研をひとりひとりでやる。ハードルは高めないと企業で使えない評価